まよひつゝ絶霞にも色もなし

宗伊法師

うらむなよ鐘のひゞきも花にさく
青柳のかけにかゝりけるかな

前大納言雅親

うちなびくいけの花は色まさりし
流るゝもわたるの世なきぞ頼む

前大僧正尊(道)

花ぞらにわたる花の一しほ
かすみとなりぬ春のあけほの

前大僧正尊道

人ならぬ花の陰にいて
何よみもとこなる春の夕ぐれ

法眼尚伯

たえなる花の色にまさりし
花にわたるしらぬしらぬく

前大納言親長

浅緑ならぬ野辺の春のはかなき
かすみへたてし色なき空の月

権大納言公藤

浦のとなりまし山河の花にうつろふ
かへす色なる人へのはるかなる

従二位義敏

わたし路山の花に宿りて

いとはしく色もまさりて

平貞宗朝臣

ゆふされはなくもいさしゆふからす
こゝろある月にとなりぬらん

権大僧都公叙

人ことにふる山桜さく花のかけに
こゝろもしのはれぬ花にさそはれて
みよしのゝ花の[illegible]
ちりもせぬ花のかけにわりける

玄宣法師

忘れつゝ花のかけにこめて
春をまつ心ゆく[illegible]

智蘊法師

花にも風をいとふものからまたしも色
ほのかにしかすみわたる月

[illegible]

春にうつる花いろはにほふかな
さくらさく[illegible]

権律師日應

夢の内この春も花のちかき
いさゝ[illegible]

[illegible]法師

ちらぬ[illegible]花も[illegible]
[illegible]

西行法師

なかむとて花にもいたくなれぬれは
ちるわかれこそかなしかりけれ

権大納言忠経

思ふやいかに花よりさきにちる
人のまやむしまつるかひなき涙

寂蓮法師

これそ世のありのうき世の風の
ちくさしつれしくてうきしほ

法橋由義

あやしくも花のまへの風の音

新撰菟玖波集巻第二

春連歌下

わかし咲る枝は河のへにみえて

関白左大臣

峯の雲や花よりさきにかすむらし吉野川

今しはしとゝめえ人を待へ

三条殿

花さかりうつらはしき河のかく

心のまゝに人の心のまゝならん

十輪院内大臣

はるの夜は霞もる月をしわりなり

かすかにしてさくらん山の

御製

うき色をさそふ風も花の宿なれや

春の行へはいつこともしらす

月は色や花は手にて人のわすれぬ世

こゝろう空にとまるはる哉

三条殿

花ちらぬあらしやめてく雲の旅

昔みしはけふのはる月にて

入道前左大臣

みやこの中の花の色にかけて

まつ色のかはらぬ宿を見えて人

智蘊法師

たゝ木の[illegible]
[illegible] 式部卿貞常親王
[illegible]
百韻の[illegible]
[illegible]
権大納言[illegible]
[illegible]
寛正三年[illegible]月九日百韻[illegible]
[illegible]
[illegible]さくら
後花園院御製

[illegible]
[illegible]
藤原[illegible]朝臣
[illegible]
[illegible]
権大[illegible]家
[illegible]
[illegible]
智蘊法師
[illegible]
[illegible]
多々良政弘朝臣

山家にも山おろしにかよふ花とこそ
見し峯の雲もひとつに春の色
前大僧正義運
わけ入ば花もかへるゝ木のもとに
吹しほれての雲ぞ風にちる
権大僧都公毅
きのふ今日花のさかりもすぎにけり
雲とみし花はしら雪
宗長法師
いく春か花をあかすと
常に見し庭の桜の花に
権大僧都日与

木ずゑにハ花の散ても猶春の
かすみもあはれ月にかゝり
従二位雪長
枕にも花のかをりの
夜半に吹すさぶ風の花
宗祇法師
見えつゝや春をすぎ行花のかげ
まてしばし春ハいくかの
宗碩法師
いさ桜花の下にてかへるさ
春ごとにかくてやけふの
権大僧都公毅

月よしの花もこの世の物ならて
[illegible]
[illegible]
花ハちり月ハかたふく明かた
[illegible]
道[illegible]法師
ちる花を[illegible]
[illegible]柳また[illegible]
[illegible]
此物とちらぬ風やなかりけん
[illegible]
[illegible]大臣

いましちるあ[illegible]梅の風
[illegible]
関白左大臣
風[illegible]
[illegible]
[illegible]のさき
入道親王道[illegible]
[illegible]
[illegible]
法眼[illegible]
[illegible]
[illegible]

寂蓮法師

はる花をくやかまてとはかなき世
一まちの思ひはなれもてゆく

肖柏法師

ちる身て又まよひけり山の
けそへこよひわかるゝなをしも

按察部家

よしもあらはいかにせてのこる涼
物花柳わかきさとの里人

前内大臣

はるもなを花ちりのこりては
つきてりの山水のこと

三品親王

ふるさとの河風ふいて花そふに
松山のこさの物はく

太政大臣

雲のおもり花の山ならまし
文明七年三月尽日百首連歌
常の色もまつかけ

御製

よしもふかてめしはた山
かつやはつるかり

入道親王尊伝

花ちりしわか跡のみの山桜

わすれて[illegible]らむ

前関白[illegible]

[illegible]花の木[illegible]

[illegible]

法橋[illegible]

しら雲[illegible]花の比[illegible]

[illegible]

権大僧都[illegible]

花[illegible]雨[illegible]

[illegible]

頓阿法師

[illegible]花の[illegible]

庭の花[illegible]

権中納言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]太政大臣

春の[illegible]花[illegible]

世[illegible]

前大僧正[illegible]

[illegible]人[illegible]や夜桜[illegible]

[illegible]

関白左大臣

いにしへ[illegible]

日よりわかれし人は見えてや[illegible]

読人しらず

山[illegible]やや[illegible]

[illegible]花の[illegible]

前関白[illegible]

わかし咲[illegible]の花[illegible]

永享五年[illegible]月[illegible]人[illegible]

[illegible]の[illegible]のふかり

[illegible]　後[illegible]前内大臣

[illegible]の花[illegible]

[illegible]の[illegible]

宗祇法師

さま人の[illegible]色と[illegible]

世の中と思ひ[illegible]の[illegible]

関白左大臣

松の色[illegible]に[illegible]

山[illegible]色は[illegible]

法橋兼載

[illegible]

[illegible]

参議[illegible]

わか[illegible]花[illegible]山

[illegible]

従一位[illegible]

花はやの[illegible]名に濡れて
行しの色香はしやまりの世

前左大臣

散らしいためしの人のあとよりて

延徳四年二月九日庚申和哥[illegible]
世中をうしとてすまぬ桜山のおく

御製

のあまりやよひの花のはるかな
千とせてふ[illegible]君か[illegible]

三条親王

はるとて色なきの世をおひてさや
なのそれの[illegible]

前大僧正道興

暮ゆともつひし花しちり
露とちえしらぬいろのいろ

権大納言[illegible]

春はあいそわり花の色をえて
山の色の雪を波にうつる

花や世乃[illegible]

わかき[illegible]

前右大臣 宗[illegible]

とはる[illegible]野色の[illegible]
いその[illegible]

宗祇法師

せいつかる花もりの山やうらみん
からめくらりる事いまし
読人しらず
見れすら花よりおくりきの兵
むしの友と見まりれつ
智蘊法師
ふるさとの花の波そ花のちる
今るか吉ゝいたへの松の
藤原盛賢
あさえかり花のおくりかれ
櫻さくひとの花おくり岸
前左大臣

ないやまとのことはさらひく
ことのはそらの月もとめん
宗祇法師
ちふかきすみし世との月見
あまのいかさ寸まて行くる
智蘊法師
よしの山松風かて花はまし
人つわくしなきたりてはな
宗祇法師
花ゆらし又月おひて
をかへて花の世中
能阿法師

山さくら今のさかりとなりぬらし
冬くさ山にて山のかひあり
源實清
花よりも此花のさかりにはなりぬらん
下の色も花てまさるらん
式部卿為親王
みよし野の櫻は外よりて花おほくあり
わか身ゆく御かけまてまさる雲
寂蓮法師
河上の花の香にかへり雨ふりけり
川上の月のさえそふ夜の
隆信朝臣

しら玉の物の花にさゝかまさる雨ふり
よそにまもれぬよそのかく
前太政大臣
春雨は山をゆるかしてさかりを
もてなす花のさかりの雲
寂蓮法師
さくらあれの花にまかるゝ雨
ちらりて宿にたちまさる春の雲
権中納言定家
わきちるや庭の雨にまさるさかせて
花のさかりてちるよりも雨
正徹法師

人よりも梅のはなの雨の色そ
みぬものを梅の花も猶そのまゝ
よみ人も
桜ちるはなの下水をたく
年々の春には法くまゝ色なれん
清明寺
のとかなるとも又花も山のは
まさしや春の名残をとゝめき
前大僧正道興准后
過ぎてなほ恋しき山路を見ても
いかにそや花の風のよそにも
前中納言雅康

一 花のなかにかきつくして梅のおき
長享二年三月日内裏にて十五番
の歌合に春の花のもとにて百首
連歌のまゝ色をかへていはるゝ
ものを
常信法親王
草の色かはるにもかたはらにかゝる
山寺を見まほしき卿
宗長法師
はるかに梅をもてはやす人々
うつろひてもちりとも見えし
肖柏法師
かくし野の月やなかにかかる宗祇

まちこうへてやなにとかはらん

源政宣

よそに見しこゝろやまつの霞たちけり
しけるあまのかすみのはれまなき
讃岐入道

なかめやるすゑの山のはかすみつゝ
さくらさくらの空にしらぬゆきそ
入道親王尊傳

山里は春をのかれぬ鳥の声
やよひの風のふきかはるらん
寂然

春のあはれしらぬ人もなしかゝ

わかれての日よりなかめの空

前大僧正慈鎮

山かせにちるにはなれのこゝろみえ
かすみのかけにたえなくもさきて
式子内親王

うつろはんいかに花のなみちの
[illegible]のいろあるまゝに人を

摂政前太政大臣

さくらをしとてそふかきよしのゝ
[illegible]の花もやとりてゆるきて
法印範

かすみたつ山たかくもの色ならん

もみちはのちりかふかけの

清原深水

や夜中夜の月をおしとて待ものを
いさよひくれてくもりぬる哉

宗伊法師

山寺の入あひのかねのこゑことに
しられさりしうき世の中

多々良政弘朝臣

けふ日さす遠山木末の嵐に散る花の
雨ふりし後の山の雲は白

宗伊法師

花のちるにや(?)ゆふくれのこゑそへて

これはとて(?)のこゝろの池のみつとも

紹[illegible]法師

ますかゝみ花のかけそふ池水に
うつる影のみあかぬ(?)かな

宗祇法師

たちかへりみるかけの(?)ことの(?)そら
月はあすかのさとの(?)ふるさと

権大納言実隆

まつかせのいりひをさそふ(?)くもまより
うつるひかけのくるゝ(?)そらかな

法橋兼載

かきとめつ廿日あまりの七月に
[illegible]

あさの思ひはまつはかりけり雲
権中納言通世
宮ぬ桜くさま花ちるらん
みしにもとりはやまあらしの風
権大納言政具
ゆくわかれはなもはなもかしつゝまちし

新撰菟玖波集巻第三
夏連歌
かへるとも春の思ひはのこるらし
権大納言実隆
夏にはなりてあらたまる山
竹の色の雪をかさねてかへん
御製
降庭は卯花の雪のちるかと見えて
以上三歌よみけるをきゝて
三条親長
まつ人かたらふ声はなく
こゝろにも月の出る雲

大僧正

山のはにちるとも西にゆく雲に
秋の雨やこそ一しほ色のまさらん

前大臣

さはかりに物思ふ月のかけには花
すゝきのこゝろもやとはなれつる

権律師[illegible]

思ひ[illegible]月はうきよの[illegible]
秋[illegible]の[illegible]にも[illegible]

西行法師

やとりつゝきくもなくつゆけし
まくらすゝむしなきてもやまん

権大納言[illegible]

古のあはれ世のほかに[illegible]
山の[illegible]の夕そしらる

[illegible]寂蓮

まきのはの[illegible]ひたつゆもかゝる
きりたちのほる秋の夕くれ

権大僧都[illegible]

秋[illegible]のゆふくれの[illegible]
思ふ[illegible]まゝにいはてやこゝろ
[illegible]のこゝろにて
たゝ[illegible]やまつりしかな

前[illegible]基俊

おもふ江のかしこくわかぬ木のまに
ゝ宮ゐわかれのいつかはるやまは
権中納言定国

わかれ行あはれもいまはかへらぬを
いかにせよとおもひけるかな
三品親王

おほゐ河いはなみたかくよるの月
月はなほのこるあさぢの露
常信法親王

ゆき雲の川にうかべるかせ
さそへやまたとかすまのそら
権大納言忠藤

あらしふくあらしの山のもみぢこそ
いろにてちるとはくを河水
法橋寛義

月かげはなほもやどりの露に
川のせにいそぐわたれのあり
法印経助

風さはぐ浦のなみにてまちつる淀
人やまつ川の月のかげならで
権中納言元長

ちりくるをみるにゆきつきぬ
かねてやとほしらみぬおもひ
重宣法師

ほとゝきすなきつる[illegible]
[illegible]ちとせの友の[illegible]
小野国繁

うつりゆく[illegible]
夏の日[illegible]
宗長法師

あやめ草[illegible]
[illegible]
藤原惠範

一こゑは月[illegible]山の[illegible]
[illegible]
能阿法師

秋[illegible]
[illegible]
肖柏法師

一[illegible]
草の[illegible]
紀三信義

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
宗碩法師

人の[illegible]
[illegible]

一 夏[illegible]
[illegible]のくり音
　　　　[illegible]
すゞしさは[illegible]
[illegible]
　　　　御製(?)
うた[illegible]
[illegible]
　　　　[illegible]
[illegible]
きく[illegible]
　　　　[illegible]

すゞしさは[illegible]
[illegible]
　　　　宗砌法師(?)
一 [illegible]
[illegible]
　　　　宗祇法師(?)
わ[illegible]
文明[illegible]
[illegible]
　　　　[illegible]
一 夏[illegible]
[illegible]

藤原雅経朝臣

一夜のみ[illegible]
[illegible]

道空法師

[illegible]
[illegible]

其阿法師

[illegible]
[illegible]

よみ人しらす

[illegible]
[illegible]

清輔朝臣

水の[illegible]
[illegible]

宗祇法師

[illegible]
[illegible]

多良時朝臣

[illegible]
[illegible]

平時良

[illegible]
[illegible]

宗祇法師

[illegible]

[illegible]

前関白[illegible]

[illegible]

[illegible]

御製

[illegible]

[illegible]

式部卿[illegible]

[illegible]

[illegible]

前中納言雅康

[illegible]

[illegible]

藤原長親

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桂河法師

[illegible]

[illegible]

法眼当快
かりと今日はきこえけんひさ川や
うきもの橋はいつれ舟哉
僧正遍也
みなせ川のつりはたえてはかなくも
あきはかうきぬとはよへる
大納言忠定
夏山の月にさけそとつ法華
みな瀬にのうきおほき夜には蒼
従一位忠平
まちいはす月に今夜の秋の影
あやいの夜きて月の影今夜の秋

関白左大臣
夜がすみ亀井月の影にたたく
何ごとはさらに酒はなのまて
法眼当快
みな井のうき影はたえにまた月
なきかりもかよふにもの月
宝蔵法師
夏山の月にこよひまつよき風
花おちもかぜさきこのこ
寄宮法師
なみ川もくらしの月にをきて
雨をまちてさき雲はれ月

正任法師

[illegible]行く月は神も[illegible]

残しきる風の結[illegible]

紹巴法師

[illegible]風雲お月[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]親

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三位親王

[illegible]

[illegible]人[illegible]

御製

中々やさし[illegible]

永禄十年三月廿日[illegible]

[illegible]百韻連

[illegible]

[illegible]太政大臣

[illegible]

[illegible]

宗[illegible]法師

わかるゝ里人ハとゝむる松のかけ
ひとりきく衣うつよハ秋のかせ
多々良政弘朝臣
なく蝉のこゑもかれ行のきのつま
かすかなる月に風の寒き夜
読人しらす
けふ暮や一夏の行をしるらむ
年をへたる宿の庵にすむもやさし
宗伊法師
名のみの庵の留主の宿の雪
ならふ水も分きし雲のかけ
宗長法師

一夏も日も暮て過る草の花
なをりて人の櫛も山の水のたに
宗伊法師
分入し山にしも秋の行雲の
をそめたる千入の紅葉のこさ
法橋兼載
さゝ波の霧にわたりゆく舟
すみ侘る人の力に思ひかね
宗砌法師
嶺にも花ハあらしのつもる雑

新撰菟玖波集巻第四

秋連歌上

荻ふく風のしらせこそあれ

前中納言雅康

秋きぬと思ひもあへぬ夕まくれ

雨ふりすさむ日くらしのこゑ

肖柏法師

生駒山雲ゐてさそふ秋やこそ

うらかなしくもとふ人そなき

法橋兼載

小笹原露分ゆく秋のくれ

いまはた人の心しらなむ

法眼尚快

まれ人にあひ見てかへりし梅かもて
江のうつりうつる月の夜

宗祇法師

柳ちる古江にけさそ秋のくれ
水にも末もまた春のゆふ暮

能阿法師

その月か秋の日もうつる山の風
にをしかけの曲もある夕か

権大僧都公敏

秋とて萩のしたもかせに山かけ
風まてゆうかれ手に秋のこゑ

多々良政弘

萩の露山のすそ野に白月
かけてや雲のかかり月まて

前大僧正道興

新すすきかけし月の秋の
ゆふ手の上にも白露の浦

清人

雲の風吹き過ぎて月かけて
冬に枯つつみの末の

宗伊法師

風も秋をもうらに風の松
とふ露もちりて末の

三品親王

日くれけりのをまちて袖風ふく
天の川のわたりまつ夜の川せ

御製

七夕のこよひ成りけん契より
長享二年、月七日内裏にて
百韻の連歌の発句に
をせやいくよせ

権大納言實隆

星合の袖ともいはて夜はふかく
なかくてもかたらふ明かたに

前大臣實

むかしより天の川の星もちきり
よのつきし舟やとのこせ

源友益

天の河わたらむとてはあまのか
いつかの中の契りもなん

法眼宗牧

たなはたの秋の夜は猶しのひつゝ
一夜を願ひ思ひはかなしき

法印紹巴

たちはなのや星合のかけも川せ
山里の空のあまの川にして

源秀満

萩てくる風にしられしはらふ
しら露やちりのこるらむ
　　源宣胤
に燃ゆる風に江の色のうへの
たくひもなき秋の花
　　宗祇法師
ほそめは萩の風しきくたし
のしへをもにしも庭
　　牡丹花道
月と秋の夜の庭の萩に
文明六年六月和漢聯句に
さく萩よりも宿の[illegible]

七夕の夜
　　慈照院道[illegible]准后
ことの葉の[illegible]庭の萩
露もちる[illegible]野の[illegible]
　　宗[illegible]法師
[illegible]池の[illegible]萩の花
[illegible]物の[illegible]
　　清[illegible]
[illegible]野の[illegible]萩の
[illegible]
　　前[illegible]女
露は[illegible]の秋[illegible]